

China Printで成果 「プレジジョンプレート」が高評価

株式会社山田紙工

山田紙工（東京都板橋区、☎03-3969-4636）は、5月9日から13日まで中国・北京で開かれた印刷・紙工の展示会CHINA PRINT 2017（2017北京国際印刷技術展）で自動平盤打抜機用の受面板「プレジジョンプレート」を出展、注目を集めた。

強みは紙器加工の視点からのものづくり

同社は今年2月、中国最大の抜型メーカー・Wohing Laser Mould（以下Wohing）と中国国内におけるプレジジョンプレートの販売代理店契約を締結。CHINA PRINT 2017のWohingブースに展示し本格的な販促をスタートさせた。

プレジジョンプレートは、面板本体にマグネットシートと特殊鋼材からなるカッティングプレートを装着するメカニズムにより品質の安定化とセット時間短縮を実現するツール。1989年の発売開始以来、大手印刷紙器メーカーを中心に採用されている。2年前からWohingで採用され、高く評価されていたことから今年、本格的な中国での販売がスタートした。

1990年代から紙器需要が急速に拡大してきた中国市場では、この数年品質要求の高まりと高騰する人件費などを背景に、量から質への転換が図られている。プレジジョンプレートはこうしたニーズにマッチした打抜きツールとして好評を博した。展示会終了直後の6月はじめ、日系印刷紙器メーカーの中国工場3社から、ムラ取り効果を実際に確認したいとの要望があり、Wohing本社深圳工場で自動平盤機を使用したテストを行った。

テストに立ち会った山田紙工の山田信夫社



国内外から再評価の気運が高まっている

長によると「テストを行った抜型は幼児用の飛び出す絵本の付属品が多い面付で、これまで一日がかりの手間がかかる仕事だったという。テストは最も難易度の高い6面付で行い、ユーザーの立会いのもとプレジジョンプレートの導入効果が実証された」という。

今後、ユーザーの工場でテストを行い、効果が実証されればグループ会社で採用される予定だという。

このほか、中国に拠点を持つ欧州紙工機械メーカーでもテストが予定されている。

一方、国内市場においても、新規の引き合い・採用が相次いでいる。国内外でプレジジョンプレートが再評価されていることに対応し、山田紙工では新しい鋼材を使用した新商品の上市に取り組んでいる。

また、“本業”である印刷紙器加工では、化粧品や食品向けを中心に一貫生産体制を整えている。2010年にはエコアクション21を認証取得。また、糊を使わず省資源とコストダウンを両立した勘合式のオリジナル紙器「エコワンタッチ」を開発するなど、技術力には定評がある。

山田社長は「品質に厳しいユーザーに対応するため、紙器工場の視点からプレジジョンプレートは生まれた。さまざまなニーズに対応できる自信があるので、紙器加工の提案にもいっそう力を注ぎたい」と意欲を示す。☎